



### CONTENTS

- P1 【活動報告】平成 15 年度定期総会開催報告
- P2 【活動報告】平成 15 年度定期総会開催報告
- P3 【活動報告】ITS 講演会開催報告
- P4 【お知らせ】

## 活動報告：平成 15 年度定期総会開催報告

さる平成 14 年 5 月 26 日(月) ホテル札幌ガーデンパレスにおきまして、札幌圏 ITS 推進フォーラムの平成 15 年度定期総会が開催されました。当日は 56 会員(委任 14 含む)の参加により総会は開始されました。

議事の進行に先立ち、山本会長からご挨拶をいただき、続いて規約に則り山本会長を議長に選出し、議事が進められました。

第 1 号議案「平成 14 年事業報告」について、事務局からの報告後、会員の了承の上、議案は可決されました。第 2 号議案「平成 14 年度会計報告」について、会員の了承の上、議案は可決されました。第 3 号議案「規約の改定」について、フォーラム名称の変更を含む内容について提案致しました結果、議案は可決となりました。この結果、本フォーラム名称は「札幌圏 ITS 推進フォーラム」から「北海道 ITS 推進フォーラム」へ変更となりました。第 4 号議案「平成 15 年度役員および幹事」について、事務局からの提案後、会員の了承の上、議案は可決されました。第 5 号議案「平成 15 年度事業計画(案)」について、事務局からの説明後、会員の了承の上、議案は可決されました。第 6 号議案「平成 15 年度予算(案)」について、事務局からの説明後、会員の了承の上、議案は可決されました。

以上で予定されていた議案は全て終え、総会は終了いたしました。総会の運営にあたり会員の皆様に多大なるご協力をいただきましたことについて、事務局よりあらためてお礼申し上げます。(以上、報告：事務局 金村直俊)



(上写真)平成 15 年度定期総会の様子

### 定期総会

日時：平成 15 年 5 月 26 日(月) 13 時 30 分～14 時

場所：ホテル札幌ガーデンパレス丹頂の間

(札幌市中央区北 1 条西 6 丁目)

### 平成 15 年度会員(平成 15 年 5 月 26 日現在)

法人会員：58 会員

個人会員：12 会員

特別会員：15 会員

### 平成 15 年度役員構成(平成 15 年 5 月 26 日現在)

会長：山本 強(北海道大学大学院工学研究科教授)

副会長：高松 泰(北海道開発局建設部道路計画課長)

五十嵐真喜(北海道建設部道路計画課長)

長利 秀則(札幌市建設局土木部道路課長)

川口 守(

(財団法人北海道道路管理技術センター常務理事)

監事：小長井宣生(北海道開発土木研究所道路部長)

原文宏(社団法人北海道開発技術センター理事)

石本 敬志(

(財団法人日本気象協会北海道支社参与)

(以上、敬称略)

### 平成 15 年度幹事構成(平成 15 年 5 月 26 日現在)

幹事長：加治屋彦彦

(北海道開発土木研究所道路部防災雪氷研究室長)

幹事：坂 憲浩(北海道開発局建設部道路計画課)

大井 立也(北海道建設部道路計画課)

品田 秀利(札幌市建設局管理部雪対策室)

阿部 芳三(札幌市建設局土木部道路課)

倉橋 理雄((財)北海道道路管理技術センター)

太田 祐司(株式会社ドーコン)

正岡 久明(株式会社シーイーサービス)

丹治 和博((財)日本気象協会北海道支社)

伊藤 信之((社)北海道開発技術センター)

加藤 誠司(株式会社長大)

金村 直俊(札幌総合情報センター株式会社)

(以上、敬称略)

### 平成 14 年度事業報告

#### 1. 啓発・普及事業

##### 1) 講演会開催(2 回)

###### ア)「ITS に関する講演会」

平成 14 年 5 月 20 日(月) 参加者：62 名

「北海道の ITS の取組みについて」

北海道開発局建設部道路計画課 高橋 渡 氏

「S.M.A.P. カード実験について」

札幌総合情報センター株式会社 樋口 洋一 氏

「IT ビジネスからみた ITS」

サンエスグループ代表 宮田 昌和 氏

###### イ)「ITS に関する講演会」

平成 15 年 1 月 22 日(水) 参加者：110 名

「ITS の民間市場はあるのか？」

(株)アイトランスポートラボ 堀口 良太 氏

「あいちの ITS と世界会議」

愛知県 ITS 推進協議会事務局長 水野 敬一 氏  
「さっぽろフットナビ! について」

札幌市企画調整局情報化推進部 石垣 学 氏

- 2) TV 番組での活動紹介
- 3) ホームページの運用
  - ・ 活動紹介やリンク集を充実, 会員名簿更新
  - ・ 資料室の開設
  - ・ トピックス等掲載更新システムやアンケート調査フォームの検討, 作成

2. 会員サービス事業

- 1) 定期総会開催  
平成 14 年 5 月 20 日(月), ホテル札幌ガーデンパレス
- 2) 会報発行  
第 6 号(平成 14 年 7 月) 第 7 号(平成 15 年 2 月)

3. 調査・研究事業

- 1) 産学官民連携による地域 ITS 推進研究会の開催  
会員を対象に研究会の進め方についてアンケート調査を実施し, その結果, 行政機関からの情報提供や会員企業からのプレゼンテーションを交え, 意見交換を行うこととなった.  
平成 14 年度の成果として, 北海道における ITS として「ドライブ観光」「冬期道路管理」等をテーマとした今後の地域 ITS 推進のあり方についての提言を取りまとめることとした.
- 2) フォーラム将来体制検討ワーキンググループの開催  
全国的な地域 ITS の展開方法を踏まえつつ, 札幌圏及び北海道における当フォーラムの役割と方向性を検討した. その結果, 産学官民連携による地域 ITS 推進研究会からの提言も踏まえ, 今後フォーラムの活動の拡大を想定した役員体制及び組織名称の改編を提案した.
- 3) ITS 地域システムアーキテクチャ策定に関する勉強会開催(平成 15 年 3 月 3 日, ITS Japan・札幌市・事務局)

4. 協力・推進事業

- 1) 「ITS 世界会議愛知・名古屋 2004」委員会への参加
- 2) フォーラム活動の紹介と各地の協議会との意見交換  
平成 15 年 1 月 23 日(木) 愛知県中小企業センター

平成 14 年度会計報告

1. 収入(単位: 円)

科目	決算額	備考
1. 前年度繰越	231,014	
2. 会費	1,058,000	
3. 雑収入	100,007	協賛金, 預金利息等
合計	1,389,021	

2. 支出(単位: 円)

科目	決算額	備考
1. 事業費	986,059	
(1) 啓発普及	797,007	講演会等
(2) 会員サービス	180,005	総会開催
(3) 調査研究	0	
(4) 協力推進	9,047	
2. 管理費	54,302	通信印刷費等
合計	1,043,616	
残高	345,405	次年度繰越

平成 15 年度事業計画

1. 啓発・普及事業

- 1) 講演会の開催
  - ・ 札幌市内で 2 回程度開催予定  
(第 1 回) 総会開催時「ドライブ観光」をテーマとして  
(第 2 回) 秋頃に北海道の ITS 推進とテーマにパネルディスカッションを開催
- 2) ホームページの運用
  - ・ 活動紹介や資料室・関連リンク集の充実
  - ・ トピックス等掲載更新システムの運用と充実
  - ・ 一般向けアンケート調査の実施

2. 会員サービス事業

- 1) 定期総会開催(1 回)
- 2) 会報の作成及び発行(2 回、6 月・12 月を予定)

3. 調査研究事業

- 1) (仮称) 地域 ITS 推進研究会の開催  
平成 14 年度の「産学官民連携による地域 ITS 推進研究会」の成果を踏まえ, 平成 15 年度においては「ドライブ観光」や「冬期道路管理」等の具体的テーマに関して, 地域 ITS の展開方法や地域情報の活用方法について引き続き研究会形式により検討する(5 回程度/年, 主に札幌市内)
- 2) 資料作成  
上記研究会での成果をとりまとめ, 本フォーラムとして関連機関や全国各地へ提言を行うための資料を作成する。また, 本資料は平成 16 年度開催予定の ITS 世界会議愛知・名古屋 2004 への利用も念頭に置き, パンフレットまたは小冊子形式を検討する。
- 3) 体制検討  
これら事業を実施するために, 主に学識経験者を中心とした会員の充実や幹事体制の増強を図ることとする。

4. 協力・推進事業

- 1) 関連講演会・会議等への後援や協賛
- 2) ITS 世界会議愛知・名古屋日本組織委員会への参加

平成 15 年度予算

1. 収入(単位: 円)

科目	予算額	備考
1. 前年度繰越	345,405	
2. 会費	1,160,000	
3. 雑収入	10	預金利息等
合計	1,529,415	

2. 支出(単位: 円)

科目	予算額	備考
1. 事業費	1,200,000	
(1) 啓発普及	800,000	講演会開催他
(2) 会員サービス	200,000	総会開催, 会報発行他
(3) 調査研究	100,000	研究会開催他
(4) 協力推進	100,000	ITS 世界会議委員会他
2. 管理費	70,000	通信印刷費他
3. 予備費	254,415	
合計	1,529,415	

## ITS 講演会開催報告

さる5月26日(月)ホテル札幌ガーデンパレスにおきまして当フォーラム主催によりITSに関する講演会を開催いたしました。講演会にはフォーラム会員を含め65名の方にご参加いただきました。講演会の内容は以下のとおりです。

日時:

平成14年5月26日(月)14時15分~16時30分

場所:

ホテル札幌ガーデンパレス丹頂の間

演題:

1)「ドライブ観光とITS~北の道ナビやニセコ・羊蹄・洞爺e街道実験の経験から~」

講師:独立行政法人北海道開発土木研究所

道路部防災雪氷研究室長 加治屋 安彦 氏

2)「北海道版シーニックバイウェイについて」

講師:国土交通省北海道開発局

建設部道路計画課開発専門官 坂場 武彦 氏

3)「ドライブ観光と道の駅について」

講師:株式会社リクルート北海道じゃらん

じゃらん北海道発編集長 中田 博人 氏

内容:

まず加治屋氏より「ドライブ観光とITS」と題してご講演いただきました。

発表内容は大きく4つに分かれ、「北の道ナビでの取り組み事例の紹介」「ユーザーアンケート調査結果」「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道実験の成果」「道の駅他の話題」でした。

「北の道ナビでの取り組み事例の紹介」では、現在運営している北海道の道路情報総合案内サイト「北の道ナビ」で提供している各種情報の紹介や、ドライブに便利な「距離と時間検索」、沿道の風景を紹介する「素敵な北の道」など現在利用者に提供しているホームページコンテンツについて説明がありました。

「ユーザーアンケート調査」では、インターネット利用者を対象に北の道ナビ上で実施したアンケート調査の結果についてご報告いただきました。アンケート結果から、検索サイトからの利用が多いこと、距離と時間検索や地図が良く利用されていること、移動経路の決定に際して道の駅等の休憩施設の有無が重要であること、インターネットでの道路情報提供が道路利用の安全性等に貢献できる可能性があることなどが報告されました。

「ニセコ・羊蹄・洞爺e街道実験の成果」では、平成14年度に実施した実験の概要について紹介していただくと共に、実験の成果についてご報告いただきました。その結果、経路や位置に応じた情報提供は有効であること、参加型プログラムが好まれること、継続的な取組みが重要となること、道の駅の拠点性を有効に活用することが必要であることなどをご説明いただきました。

最後に現在北海道内で実施されている道の駅スタンプラリーや道の駅連絡会ホームページの紹介と共に、北海道におけるドライブ観光人気の高さとドライブ観光の環境づくりの重要性についてご報告いただきました。



(上写真)ご講演される加治屋氏

次に坂場氏より北海道版シーニックバイウェイを中心に現在国土交通省および北海道局・北海道開発局で取り組まれているドライブ観光関連の事例についてご講演いただきました。

まず、国土交通省が取り組んでいる「スマートウェイ」について、ETC促進普及策やDSRC(狭領域無線通信)を含め、次世代の道路で実現される多様な情報サービスなどのお話をいただきました。

次に、北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入の背景についてご説明いただきました。今回のテーマであるドライブ観光に関連して、既存の各種調査結果から、北海道は国内でも非常に高い人気を誇る観光地であり、また北海道自体が観光産業によって支えられていること、この北海道観光は自然景観やドライブ目的が多く、道内での移動が乗用車での移動が主流となっていることなどをご説明いただきました。

これらの背景の元、「美しく個性的な北海道づくりを目指して」を理念として、シーニックバイウェイ北海道2003制度のご説明をいただきました。推進のための基本方針は「1. 地域住民組織中心のダイナミックな運営体制」「2. 地域ブランド形成によるコミュニティビジネスの企業」「3. きめ細かい情報と総合的サポート体制」をあげられ、現在「千歳~ニセコルート」「旭川~占冠」という2つのモデルルートで効果的な制度を検討していることをお話いただきました。また、シミュレーションの一つとして、現在の道路と比較して、矢羽根(道路境界を指し示すもの)や電柱を撤去した場合の景観の違いについてもご説明いただきました。

最後に、先行した取組みが行われている米国シーニックバイウェイプログラムの概要について、「米国におけるシーニック・バイウェイプログラムの概要」、「シーニック・バイウェイの事例」、「バイウェイの管理運営組織」という視点でご紹介いただきました。

シーニック・バイウェイプログラムの概要では、米国における経緯から指定ルート体系、現行制度の流れや組織体系についてご紹介いただきました。シーニックバイウェイの事例では、ブルーリッジパークウェイという代表的なルートについて、現地写真を交えてご紹介いただきました。最後に管理運営組織では、米国では多様なNPOやバックアップ組織が存在し、地域の自主性を重視していることや景観・環境保全の総合的手法としてもこのプログラムが推進されていることなどの特徴をお話いただきました。



(上写真) ご講演される坂場氏



(上写真) ご講演される中田氏

最後に、中田氏より「ドライブ観光と道の駅」と題し、ご講演いただきました。

はじめに、「ドライブ観光」の定義について、中田氏ならではの定義としての7要素についてお話頂きました。

7要素とは、1泉(温泉)、1食(食べ物、グルメ)、1物(お土産、名産品)、1景(景色、景観)、1体験(ラフティング、山登り等)、1催(イベント、祭り)、1駅(道の駅)とのことです。

続いて、中田氏が編集長を勤められている北海道旅行ガイド(全国発売:13万部)での道の駅についての読者アンケートの結果についてお話いただきました。全部で13の項目についてお話いただきましたが、その中でも「道の駅の利用目的」では、道の駅が名産品を販売するには絶好の場所であり、また、情報提供には、道内と道外等のターゲットに合わせた情報内容を検討する必要があること、「提供して欲しい道の駅情報」では、先に示したドライブ観光の7要素のほかに、道路情報、天候情報などの要望が高かったこと、「目的地への希望コース」では景観を楽しめるコースや自然に触れられるコースという、坂場氏のご講演にあったシーニックバイウェイの取組みと一致したニーズのあることなどについてご説明いただきました。

次に、これらアンケートの結果も踏まえ、道の駅は情報発信ステーションであることについてご説明いただきました。

ドライブ観光情報の新・三種の神器とは、中田氏のお話では、「じゃらんのような旅行情報雑誌」「地図(ドライブ観光の7要素が含まれている地図が最強)」「道の駅」とのことです。

最後の道の駅について、情報発信ステーションとしての道の駅での6つのメディアをお話いただきました。

それは、「人」メディア、「紙」メディア、「掲示板」メディア、「情報端末」メディア、「店舗」メディア、「顔ハメ看板」メディア、でした。道の駅では、これらいろいろなメディアを特徴に合わせて適切に利用し、情報発信していくべきであるという提言をいただきました。

最後に、今後、情報やメディアの開発を行うにあたっては、利用者側にとって考え、多様なメディアをその特徴に合わせて駆使していくことが、効果の高い、ブランド力のある情報発信となることをお話いただきました。

講演の終了後、短い時間でしたが、参加者からの質問もあり、終了となりました(以上、報告:事務局 金村直俊)

## 事務局よりお知らせ

フォーラムでは各種連絡・お知らせ、特別会員の国・地方自治体の方からの事業や公募のご案内等を電子メールでお伝えしております。電子メールアドレスをお持ちの方で、まだ登録がお済みでない方は、この機会にぜひメールアドレスをお知らせください。info@sapporo-its.gr.jp または 011-232-0048(FAX)で受付しております。ご連絡の際は、会員名と電子メールアドレスを忘れずをお願いいたします。

連絡先が変更になった場合は変更申込書(ホームページからダウンロードできます)をご利用の上、郵送または FAX で事務局まで送付願います。

年会費納入のお願い

年会費をまだお納めになっていない方はお早めにお納め願います。なお振り込み手数料は各自でご負担願います。

(振込先) 北洋銀行札幌市役所支店 (普)3169840  
北海道 ITS 推進フォーラム

**(注)口座名・口座番号が変更になっております**

会報第9号は平成15年12月発行予定です。

編集・発行/北海道 ITS 推進フォーラム(Hokkaido ITS Forum)  
<http://www.sapporo-its.gr.jp/>  
事務局/〒060-0001  
札幌市中央区北1条西3丁目 MNビル10階 札幌総合情報センター(株)内  
TEL 011(232)4848 FAX 011(232)0048  
E-mail [info@sapporo-its.gr.jp](mailto:info@sapporo-its.gr.jp)  
事務局長: 蓮井 七男、事務局員: 金村 直俊、安藤 浩司